

3. 新規就農者への助言

経験を踏まえての後進へのアドバイス

今回の新規参入の事例調査にご協力頂いた6戸の農家の方に、これから新規参入でいちご経営を考えている方へのアドバイスをお聞きしました。

先輩方の経験を今後の参考に活かして頂ければと思います。

質問項目は次の6つです。

- Q 1 研修先はどのように探したか？
- Q 2 就農前の研修期間はどのくらいあれば良いか？
- Q 3 自己資金はいくら用意すべきか？
- Q 4 農地はどのように確保したら良いか？
- Q 5 何年で経営が軌道に乗ることが理想か？
- Q 6 これから新規就農を考えている人へのアドバイス

なお、年齢、家族構成、栽培規模等は就農当時のものです。就農〇年目は、平成23年夏の時点での年数になります。

氏名 Aさん(足利市) 52才 就農7年目
労働力 本人、妻、パート3人(通年1人、臨時2人) 栽培規模 하우스26a

Q1 研修先はどのように探しましたか？

→就農を考えたときにJAに相談したが、そのJAから先進農家を紹介してもらった。研修先の農家には農地の選定等のアドバイスもしてもらった。

Q2 就農前に、研修期間はどのくらいあれば良いと思いますか？

→自分の場合は、8月～翌年の3月までの9ヶ月間、週に6日通って技術等を学んだ。その間は研修なので無報酬。研修先からハウス1棟を預けてもらって、アドバイスをもらえると良かったと思っている。

並行して、農大の研修を4月～翌年3月まで受講した。農大の研修では県内の先進農家を見学する機会もあって、これからの経営を考えるプラスになった。

Q3 いちご栽培を始めるのに自己資金はいくら用意すべきと思いますか？

→自分の場合は毎月決まった給料で生活する習慣ができていたので、就農したからといって、急に支出を減らすことは難しいと思っていた。就農する人の生活パターンによって、かかる生活費は違うため、一概にいくらとはいえない部分もある。

ただ、1年半の間の生活費や、細かな資材費等の支出も結構あるので、1,000万円程度は用意しておいたほうが安心だと思う。

Q4 農地はどのように確保したら良いでしょうか？

→はじめ、個人的に心当たりがあった群馬の農地でいちご栽培することを考えていたが、研修先の農家に現地を見てもらったところ、いちご栽培には向いていないと判断された。そこで、JAの職員が顔見知りの人と調整してくれ、現在の地主から借りることができた。農地は知らない人に貸すことはないので、信頼できる人が間に入ってくれれば借りることができる実感している。就農してきちんと農地を管理しているので、隣接の畑も借りてほしいと言われるようになった。

Q5 何年ぐらいで経営が軌道に乗ることが理想ですか？

→自分の場合は1年目は赤字、2年目以降は黒字になっている。就農前に収支計画を作ったが、ほぼ計画どおりには進んでいると思う。

Q6 これからいちご栽培で新規就農を考えている人にアドバイスがあれば。

→施設の建設費や農薬肥料等の資材費は上昇しているが、いちごの販売単価は逆に下がっている。これから始める人にとっても経営環境は厳しいと思う。自分の場合は、すべてJA出荷では経営は厳しいと考え、直売の比率を増やす工夫をしている。直売を考えるならば、周りに競争相手がいないところがいいですよ。

氏名 Bさん(真岡市) 39才 就農5年目
労働力 本人、パート2名 栽培規模 ハウス18a

Q1 研修先はどのように探しましたか？

→前職(農業関係)の人脈を通じて研修先を探して頂きました。研修を受け入れてもらう前に、受入先の方と面談する機会がありましたが、この段階で、技術や経営に対する考え方、研修中や終了後の関わり方等、話をしっかり聞けたことが円滑な研修に役立ちました。

Q2 就農前に、研修期間はどのくらいあれば良いと思いますか？

→8月から翌年4月まで9ヶ月間、受け入れて頂きました。理想は1年間一通りの作業を学ぶことだと思います。それより短い期間だと学べない作業があることと、研修先も受け入れづらくなります。また複数年だと研修か労働かあいまいな部分があるので、難しいと思います。

農業技術関連の情報収集には、最低限の基礎知識が必要です。農大の講習会等を受けたことはその点で大いに役に立っています。

Q3 いちご栽培を始めるのに自己資金はいくら用意すべきと思いますか？

→私は2,000万円弱の自己資金を用意し、固定資産の投資と初年度の運転資金の合計で1,000万円程度を要しました。固定資産の投資額については、経営指標等をもとに必要額が出せますが、運転資金は売上が見込みどおりに入るとは限りません。私も多くの失敗や不可避の事故に遭遇しており、資金は多めに用意することをお勧めします。

Q4 農地はどのように確保したら良いでしょうか？

→JA 営農担当者からの紹介で、リタイアするイチゴ農家の農地と施設を借りることができました。就農2年目で規模拡大しましたが、その際は研修先の親戚の方の農地を紹介して頂きました。このため農地を借りる苦労はあまりしていません。

農地には適不適があり、収量や作業効率を通じて長く収益に影響します。今後の規模拡大にあたっては十分に吟味して決定するのを感じています。

Q5 何年ぐらいで経営が軌道に乗ることが理想ですか？

→理想は初年度から経営指標が示すような売上を得て、運転資金を回収することですが、開業後しばらくは経験の浅さゆえの失敗は必ずあると考えた方がよく、このような状況を回避できるようになることが軌道に乗ることだと思います。私はまだこうした段階に至っておらず、借りられる機械は借りる、できる工事は自分でする、遅い時期まで収穫を続けるなど、かなり無理をして収支を合わせているのが現状です。

Q6 これからいちご栽培で新規就農を考えている人にアドバイスがあれば。

→他の仕事を辞めて開業する、特に移住して開業する場合には、土地や機械、施設がなく、家族労働力もない状況で、頼れるのはもっぱらお金ということも多いと思います。しかし、作物にあった農地を斡旋してもらえるか、業者が親身に施設を設計してくれるか、誠実に仕事してくれるパートさんが集まるか等、人脈や情報がない中でお金だけでは解決できない問題もたくさんあります。お金に頼る局面と人脈構築と情報収集が必要な局面を見定めておくことをお勧めします。

労働力調達を例にとれば、私は普通に仕事をしてもらえるパートの方を揃えるのに3年を要しました。開業当初は労働需給がタイトで、人づてに声をかけて頼んだのですが、よそ者のところには良い人が回ってこない状況で作業水準の低さに苦労しました。現在はハローワークから紹介される方の水準が高くなり、よそ者でも労働力の調達が容易になりました。この点で、新規参入のハードルは下がったといえるのでしょうか。

氏名 Cさん(宇都宮市) 38才 就農11年目
労働力 本人、妻、パート2名 栽培規模 ハウス22a

Q1 研修先はどのように探しましたか？

→期間を決めた研修には行きませんでした。農業関係の営業の仕事をしており、県内のいろいろな農家に出入りしていたので、そこで知識や技術を見聞きしながら覚えました。

Q2 研修にいかず、栽培技術の不安はなかったですか？

→就農してからやりながら覚えました。支障はなかったですね。ただ、わからないことは多く、その都度、知り合いの農家に遠慮せずにどんどん電話して教えてもらっていました。

Q3 いちご栽培を始めるのに自己資金はいくら用意すべきだと思いますか？

→ハウス20aの規模で諸々含めて1,000万円必要ですから、最低でも1,000万円は自己資金で用意してスタートすべきです。まずはそれが最低額です。できればプラス生活費300万円も欲しいところですが。

Q4 農地はどのように確保したら良いでしょうか？

→私の場合は100人の農家に片っ端から電話をして探しました。研修先があれば、そこで紹介してもらおうとスムーズだと思います。これまで私の法人で研修した人たちも農地の確保が一番苦労しています。研修生には、私に話が合った農地を紹介しています。

Q5 何年ぐらいで経営が軌道に乗ることが理想ですか？

→私の場合は、栽培そのものでは2作目以降黒字です。ただし規模拡大や経営の多角化で新規の投資を重ねているので、減価償却額はかさんでいますが。経験的に2～3年うまく乗り切れれば、後は大丈夫だと思っています。

Q6 これからいちご栽培で新規就農を考えている人にアドバイスがあれば。

→私のところにもいろいろな人が新規就農したいと相談に来ますが、現状認識がない人や考えが甘い人が多いです。栽培ができて経営ができないと失敗しますので、経営する覚悟が必要です。それから就農後は地域の人とうまくやっていけるか否かが重要なので、人の忠告を素直に聞くことができることも大切ですね。

氏名 Dさん(野木町) 34才 就農8年目
労働力 本人、妻 栽培規模 ハウス13a

Q1 研修先はどのように探しましたか？

→職場の同僚が農業資材の会社の息子で、彼の父親を通じて研修先の候補を3軒紹介してもらいました。仕事の休みの日に直接会って話をし、研修先を決めました。

Q2 就農前に、研修期間はどのくらいあれば良いと思いますか？

→自分の場合は9月から翌々年の3月まで1年半、週に5～6日研修をしました。

Q3 いちご栽培を始めるのに自己資金はいくら用意すべきと思いますか？

→自分の場合は家を先に入れてしまったので、栽培スタート時には300万円程度しかありませんでした。ただ、いちごを廃業する農家のハウスを借りることができたので、初期投資は少なくすみまし、肥料代や資材代はいちごの収穫代金が入ってからの支払いにしてもらうなど、周りにも融通してもらったことが大きいです。

Q4 農地はどのように確保したら良いでしょうか？

→研修先を紹介してくれた資材屋さんと一緒に、いろいろな物件を回りましたが、これはと思うものがなかったので、農業委員会に相談して、その紹介があった物件で決めました。ただ、ハウス付きだったため、地代が年40万円と高かったので、3年契約終了後は更新しなかったです。現在の農地も農業委員会から紹介してもらいました。

Q5 何年ぐらいで経営が軌道に乗ることが理想ですか？

→1年目は全くの赤字、2年目は若干の赤字で、3年目から黒字になりました。新たにハウスを建てたりと投資をしているので、大きな収益の伸びはありません。現在はコストを削減しながら経営を成り立たせています。

Q6 これからいちご栽培で新規就農を考えている人にアドバイスがあれば。

→自分の場合は地域に溶け込むことが最初だと思ったので、家を買うことを優先させました。農業の場合、地域とうまくやっていくことが大切なので、地域の行事には積極的に参加するなど、自ら集まりなどに入っていき、ポイントだと感じています。

氏名 Eさん(矢板市) 43才 就農8年目
労働力 本人、パート1人 栽培規模 ハウス20a

Q1 研修先はどのように探しましたか？

→いちごを栽培している知人がいたので、その知人から農家を紹介してもらった。
仕事が休みだった土日に研修に行きました。当初の予定では1年だったが、苗の管理も
学びたかったので、1年半になった。

Q2 就農前に、研修期間はどのくらいあれば良いと思いますか？

→全体の期間の長さというよりも、作業の要所要所を押さえることが大切ではないか。最低
で月に2～3日行けば、概略は理解できると思う。後は自分で経験しながら学ぶもの。

Q3 いちご栽培を始めるのに自己資金はいくら用意すべきと思いますか？

→自分の場合には、自己資金で600万円を用意しましたが、結構予定外の費用がかかり、
自己資金があつて助かった部分も多かったです。無収入期間の生活費として夫婦で年間
300万円は必要だと思うので、プラス予定外の支出を考えると、500～600万円は必要と
思います。

Q4 農地はどのように確保したら良いでしょうか？

→私は妻の実家の土地で就農したので、自分で探した経験はありません。ただ、今の土地が
風が強く自然災害に遭いやすいなど、就農して気付いたこともあったので、立地条件は近
隣の農家の人などによく聞いてみた方が良いと思います。

Q5 何年ぐらいで経営が軌道に乗ることが理想ですか？

→研修で学んだといっても、毎年経験を積んでいくことで身に着くものが多い。早くて5年
はかかるのではないのでしょうか。

Q6 これからいちご栽培で新規就農を考えている人にアドバイスがあれば。

→これからの時代は食べ物を作ることが再評価されると思います。販売先も国内だけでなく
海外への輸出も考えられる時代なので、自分なりに勉強していくと良いのではないでしょ
うか。

氏名 Fさん(高根沢町) 36才 就農4年目
労働力 本人、両親 栽培規模 ハウス15a

Q1 研修先はどのように探しましたか？

→とちぎ農業未来塾で知り合った人がいちご農家の後継者で、その人のところで研修することに決めた。

Q2 就農前に、研修期間はどのくらいあれば良いと思いますか？

→自分の場合は、学校(未来塾)の合間をぬって、週に1~1.5日程度研修に行きました。育苗、定植準備、定植、収穫、パック詰めなど一通りの作業を覚えることが重要なので、ポイントごとに半年くらい通えば良いのではないのでしょうか。

Q3 いちご栽培を始めるのに自己資金はいくら用意すべきと思いますか？

→無収入のときの生活資金は人によるので一概には言えませんが、経験が浅い分、栽培に失敗することもあり得るので、2年分ぐらいの生活費は用意した方が良いでしょう。

Q4 農地はどのように確保したら良いのでしょうか？

→市や県などの公社や関係機関に相談することに加えて、自分の足で探すことが良いと思います。農地は知らない人には貸さないで、まずは自分を知ってもらうことも含めて、幅広く歩くことが良いのではないのでしょうか。

Q5 何年ぐらいで経営が軌道に乗ることが理想ですか？

→3年で軌道に乗せるのは難しい。5年やって何とかなると感じている。

Q6 これからいちご栽培で新規就農を考えている人にアドバイスがあれば。

→自分の場合は、いちごを始めることが目的となってしまったという反省もあるので、1年目からしっかりと収穫するつもりで準備したほうが良いです。

いちご新規参入経営支援マニュアル
チェックポイントと経営試算、
先輩からの助言

発行 平成24年3月
編集 栃木県農業試験場 いちご研究所
TEL 0282-27-2715 FAX 0282-27-8469